

音

の ま に ま に

10 Music Life TEN

映画評論家、バッグデザイナーの木村奈保子さん。今回のエッセイはフィリピンの元大統領夫人イメルダ本人が出演した映画をはじめ、ドキュメンタリー映画について。フィクションの映画はよく見ている、ドキュメンタリーはちょっと……という人にもぜひ見ていただきたい作品です。



①



②

①
ルートヴィヒ — 神々の黄昏
完全復元版
監督:ルキーノ・ヴィスコンティ
出演:ヘルムート・バーガー 他
販売元:EMI ミュージック・ジャパン

②
ココ・シャネル
監督:クリスチャン・デュゲイ 他
出演:シャーリー・マクレーン
販売元:東北新社

※2枚のDVDはどちらも絶盤です。

グローバルスタンダードのヒロイン分析

ファッションデザイナーのココ・シャネルは言った。

「香水をつけない女性に未来はない。」

私のことだ。もともと香水や宝石、化粧など女性っぽいものを得意としていないうえ、最近、肥満、怠慢のせいで、ハイヒールがほぼ、履けなくなった。

ついには、着たい洋服のサイズが見つからない、可愛いヒール靴も履けない、といった、情けない状態だ。

学生時代から、体型の弱点を隠しながら、同時に目を引くファッションスタイルを自分なりに研究して、しばしば自分で衣装をデザインしてオーダーメイドしていた。ハイヒールを履いたのは、背の高い4人グループのなかで、一番自分が低かったから。とりわけ、靴は、先の尖ったデザインが好きで、個性的なデザインものに凝った。

仕事で稼いだ金銭は、自分を美しく見せるために費やした時期が、私にも少しはあった。

だから、ドキュメンタリー映画「イメルダ」のヒロインキャラは、それなりに魅力的だ。もし彼女が、もう少しわきまえた範疇で、おしゃれをしていたのなら。あるいは、美貌により得た権力で、もっと貧しい民に貢献していたのなら。

イメルダは、フィリピンの大統領夫人で、大きな権力と国の予算と政治的責任があった。

この映画は、マルコス政権のファーストレディで政治に深く関わり、贅の限りを尽くしたとされる美貌の女帝の生涯を女性監督が描いたドキュメンタリー。これまでのニュース映像で歴史を追いながら、現在80歳のイメルダ本人が出演する作品だ。

完成後にイメルダ夫人がこれを見て、怒り心頭で、上映さし止めを訴えたことから想像できるように、決してイメルダ‘よいしょ’物語にはなっていない。むしろ、その逆。だから、作品として面白い。

まずイメルダは、未来の大統領マルコスを明らかな美貌という武器でゲット。大統領になった夫とともに常に表に、前に登場した。また各国の権力者と外交を果たした実績もあり、その自信あふれる社交性と華やかな存在感により評価された。映画の中で、イメルダはさまざまなコメントを展開する。

「私は、持たざる者たちの憧れの象徴ともなり、誰もが成功できる、という夢を人々に与えた」とイメルダは言う。

しかし、美への執着で、高価な衣装や贅沢な宝石など「自分へのご褒美」も度を過ぎると、その行為は、美意識から遠ざかる気がする。国の財産でできる、もっと美しい行為とは何か？ 贅を尽くすために権力を保持したという非難にさらされる前に、それに気付くべきだろう。男性ができない結婚による昇進、というウルトラCをやったのだから、それを男性よりも10倍美しい行動で返せたら、女性はもっと価値が上がる。

イメルダはその後民衆蜂起でハワイへ亡命し、夫亡きあと、下院議員に当選。娘と息子もその後政界へ。やはり夫の名前からつづく世襲の血と、その母親の存在は強い。

イメルダはシャネルを好むセレブのひとり。77歳で、彼女はイメルダコレクションというモードを立ち上げた。

彼女は、もっと早くファッションか女優への道を切り開くべきだった。権力など持たず、そのパワーをクリエイティブな方向に向かわせればあそこまで浪費せず、お金をまともに稼いで厳しさを



イメルダ
美貌と権力を手にした「女帝」の生涯

[監督] ラモナ・ディアス
[出演] イメルダ・マルコス ほか
[公式HP] www.imelda.jp
2004年 / フィリピン共和国・アメリカ合衆国 /
DVCAM / カラー・モノクロ / 103分 / 日本語
字幕
配給: ユナイテッド エンタテインメント
(C)Cinediaz Inc. All Rights Reserved.

学ぶことができたのかもしれない。

私の最も好きな映画に、ルキノ・ビスコンティ監督の「ルドヴィヒ、神々の黄昏」がある。音楽、絵画、ルイ・ヴィトン……と、貴族趣味を究極まで追求し、国を滅ぼしたルドヴィヒ2世の、マゾヒスティックな美学を見せる芸術映画だ。

王の魅力的な存在とはうらはらに、国を治める立場の人間が、美や芸術に傾倒しすぎて、経済と文化のバランスを崩すという過ちを犯した。イメルダより何倍も高尚な趣味だが、芸術家のパトロンとして浪費に溺れたのだ。

その点、映画「ココ・シャネル」のヒロイン、ココは、高級ブランドを作り出す側。ココは、言った。「ぜいたくを貧しさの反意語だと考えている人もいるけど、それは間違いね。下品さの逆と考えてほしいわ。」

当然、自分の商品を手にする顧客へのリスペクトを込めて自分の哲学を述べているのだが、彼女は、美を生みだしている側だ。そこに到達するキャリアへの苦労も大きい。

プロのデザイナーとして成功したシャネルの人生は、そもそも孤児院育ちで、裁縫を覚えたことから始まった。若くモテる時代も、玉の輿はねらず、男性のアプローチに「私が自立してからね」とつきはなした。

帽子作りから始めたとき、ココはアパート代も払えず、自分の作品を商品にすることだけを考えている。そこへ別れた恋人の友人が現れたのだ。この独身実業家は、彼女の才能と愛のために仕事をサポートする。このとき印象的なココのフレーズは、「マイ・タレント、ユア・マネー」だ。

ビジネスマンも利益のための投資だから、フェアな関係である。自分の才能にスポンサーをつけたいとき、このフレーズは使えそうだ。「マイ・

タレント、ユア・マネー」で、常に自分のアイデアをサポートしてくれるクライアントがいたら、どんなに有り難いだろう。

ココは、理想の男性と生産性のあるカップルとなるが、やがて「マイ・タレント」が開花した後、「ユア・マネー」を返す律儀さまで、しっかり描かれている。

映画のオープニングは、ココが、77歳で久しぶりにモードのファッションショーに復帰すると言い出すところから始まる。経済的な問題を抱えるスタッフの反対を押し切って、好き勝手に動こうとするココのエネルギーは、ゼロからスタートした起業家ならではのパワーにあふれ、美しい。シャリー・マクレーンの老いたココ・シャネル役は、若き日のどんな役よりも魅力的で、刻まれた皺も味わい深い。最高の女優が演じたことで、ヒロイン伝説は、完璧なものになった。

イメルダ映画を、物語として構成し、アンジェリーナ・ジョリーあたりが演じたら、見方も変わっただろうか。

それにしてもイメルダは自分自身がスターのつもりだった。実際は権力を持つ政治家で、国家を守る責任がある。

美しさはおまけ以上の何物でもない。「私は国民の希望の星」と見下ろした考え方は傲慢というもの。

ハリウッドの女優は、ほんとうの意味でスターだが、女優としての美貌や知識、技術を磨き、肉体で稼いだマイ・マネーで、親のない第3諸国の子どもたちを引き取ったり、社会活動に向かう。

かくも成功した欧米女性の美意識、価値感が先進国家を作る。

相変わらず、男と女は違うもの、とだけ言い張っている日本の文化はどのようなだろう。



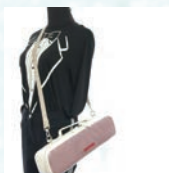
Information

NAHOK (ナホック) 新作のご紹介

WEB限定!! NAHOK (ナホック) スペシャルハンドメイド

西陣織はすべて1点のみの柄。革は1カラー、2~3点くらいの製作。デザイナーテイストの特別版でC & H管とも数量が限られており、管理の都合上楽器店では販売していないので下記URLからお申し込みください。

商品は無くなり次第、終了いたします。



- NAHOK フルート革張り [Amadeus leather]
- C管 ¥25,000 (税込 ¥27,000)
- H管 ¥27,000 (税込 ¥29,160)

ソフトな革を前胸に重ねてみました。スーパーティルトにかぶせているので防水力は落ちません。

www.nahok.com

NAHOK は、ドイツ製完全防水生地、止水ファスナーを加え、さらに欧州輸入の耐衝撃、温度 & 湿度調整機能素材を挿入したMADE IN JAPANの逸品です。



木村奈保子

映画評論家、作家、演出家、NAHOK デザイナー。京大卒業。CBC局アナから映画評論家へ転身。

ゴールデンタイムの映画解説を17年間勤め、同時に演出家としてテレビ番組やファッションビデオの制作や、著作、講演なども多数手がける。昨今は、映画音楽の演奏活動やプロデュース、ダンス舞台の演出ほか、画期的な楽器ケースを研究開発、デザイン。文化的かつ、アントレプレナー（企業家）の資質で活躍する。

www.kimuranahoko.com/